

第3期身延町行政改革推進委員会

平成25年度第2回委員会 会議録

○開催日 平成25年7月24日（水）

○場 所 身延町役場本庁舎第1会議室

○出席者 委員： 千頭和文明 渡邊一郎 星野佳彦
日向啓子 小林眞一 佐藤初美
川崎美香 塩津尚人 遠藤一彦

以上9名

事務局：笠井一雄（総務課長）

行政改革担当 佐野和紀リダ - 望月 恵

以上3名

欠席者 委員： 片田駿三

★19時28分 定刻前であるが、全員着席したので総務課長の進行により開会

★千頭和文明会長挨拶

★会長が議長となり、審議に入る。

○本日の資料確認（事務局）

①行政改革実行プランー平成25年度～平成27年度版ー

②行政改革実行プランー平成25年度～平成27年度総括版ー質問シート

③行政改革実行プランー平成25年度～平成27年度総括版ー訂正表

○訂正表により訂正箇所の説明（事務局）

訂正項目1番・2番

○推進項目『1職員の行動改革と町民との連携と協働の推進』について事務局から説明。

○委員より質問シートが事前に提出されているので、その回答を行う。

◎P1『①行政改革の原点回帰 全庁的事務改善活動の推進』

【委員】 「定性的目標」とは。

【事務局】 「定量的目標」とは数値を持った基準・目標値。「定性的目標」は数字では表せないものについて「定性的目標」として表した。

【議長】 「全庁的事務改善活動の推進」の中で、165件を200件にするとのことだが、総括版の説明で、165件の提案は84人で、まだ123人は1件も提案していないという話だった。

3年前に遡るが、200件の目標設定は一人1件の提案だった。123人提案していないなかで、あと35件でいいのか。84人で165件をクリアしているということは、84人が平均2件程提案してきている。このままいくと、既提案者がまた提案してくれば、△123人は何も提案しなくても6年間過ぎてしまう。目標設定時の取り組みが、一人1提案だったことを考えると、この辺を具体的にもう少し考えた方が良い。逆に、△123人に提案してもらうような形にした方が良く思う。

【委員】 国からの補助金があり、決まっている仕事をこなしていくような課は、事務改善はあまりあがってこない。自分たちで考えてどうこうすることがない。事務改善といっても、目先の仕事に追われて、事務改善どころじゃない。余裕がないのではないか。もう少し仕事に余裕があれば。

【議長】 165件84人の人から上がっているが、傾向として、リーダーから課長はほとんどない。課長たちのように30年もこの仕事を同じように流れていると同じ事務処理になるから出てこない。

【委員】 入ったばかりの人や異動してきたばかりの人だと出てくる。新しい仕事だと事務に疑問を持つことが出来るから。

【事務局】 若い人ばかりではなく、課長・リーダーも提案している。

【委員】 「カイゼン」から「改善」に意識が停滞しているのでは。上からではなく、自分たちからの提案型。原点回帰とあるので、全員が提案できるようにすべき。件数だけじゃなく、中身で200人いれば、3年間で1件は提案を必ず、といったようにすることも大事。

【委員】 そういう気持ちで仕事に取り組まないと、マンネリでやれと言われたことのみやるのではなく、町をどういうようにしていくか、自分たちの仕事に問題意識を持って仕事に取り組むべきだ。

【委員】 そこが、「カイゼン」のひとつの意味でもある。

【委員】 皆そういう意識は持っていると思う。寝れないほど考えることもあると思う。

【委員】 目標欄123人の方が良いのでは。

【委員】 200件よりも、「未提案者の解消」とした方が良い。

【議長】 職員提案の200件は、目標設定の再検討を。未提出123人をどうするのか。

◎P1『①行政改革の原点回帰 課内事務改善活動の推進』

【議長】 少し引っかかるのは「課内事務改善活動の推進」に会計課と生涯学習課が担当課として出している。確かに必要なことだが、ここに載せるのかなど。

【事務局】 一番上の「全庁的な事務改善活動」に入るのではないかと、いった話を担当としました。担当としては、表に掲載した方が職員の意識も違うのではないかと。上記に入れてしまうと、紛れてしまい、意識の改善にならない恐れがある為、担当課の希望により個別の掲載になった。

【議長】 逆に、会計課と生涯学習課だけで、他の課は課内改善活動を推進しないととられないか。他の所はどうなっているのかといった疑問にもなり、違和感がある。取り組み計画自体は良いと思うが、引っかかる。

生涯学習課の「課内事務改善活動の推進」は、目標3年間で15件ということは1年間に5回。平成24年度に9件行ったのに、なぜ減るのか。

2つの課内改善は各課から掲載の要望なので、違和感もあるが、このままにする。

◎P1『②運営から経営への意識チェンジ コスト意識の高揚』

【議長】 別表3も含めてご意見を。

時間外も以前から大分抑制されている。消耗品も大分減っている。ただ、コスト意識の高揚となると、民間との違いがある。

切り絵の森美術館で、全国から切り絵を募集した。先日審査も

終わり、140点程入選作品があった。その募集要項は白黒で全くシンプル。そして、生涯学習課が作った、なかとみ現代工芸美術館の美術工芸募集要項はカラーで立派な募集要項。書いてある内容は同じ。これが民間と行政の違い。紙の質も違う。

身延町の観光パンフレットをこちらに用意したが、何種類もある。多分、富士河口湖町は別にして、この周辺の町村だとこんな所は無い。さらに、商工会・観光協会に町から補助金が出ているが、そこからも別の観光パンフレットがでている。全て、身延町から補助金が出ている。

【委員】 重複しすぎている。

【総務課長】 全て単費でつぎ込んで作るのではなく、商工会・観光協会と一緒に作って作る場合もある。国・県の補助事業を利用している場合もある。単純に何種類も出せば皆に見てもらえるということでは無い。

【議長】 これほど立派なパンフレットは身延町だけ。南部町はこの半分程度の大きさ。この辺が多少コスト意識の問題かと思う。少しずつ見直す必要がある。

◎P10『②運営から経営への意識チェンジ コスト意識の高揚 目標設定型の施設運営へ転換を推進する 別表3』

【議長】 湯之奥金山博物館の入館料が、平成24年度11,084千円、3年先の目標が11,100千円。3年間で1万6千円増える。84,000円を四捨五入しただけではないのか。書いてある取組計画はすごい。ここまで活動して1万6千円は少なすぎるのでは。

【委員】 下部温泉付近は通りがかってもお客様が少ない。

【議長】 金粉を上手く使ってPRしている。博物館協議会で砂金採りをしていた。第三次計画の運営から経営への意識チェンジの項目に「行政運営を管理から経営に転換し、民間の経営手法を取り入れながら、町民の満足度がさらに向上するよう、事務・事業の短期的な成果目標を設定するとともに…」というようなことが書いてある。目標を直せとは言わないが、このような低い目標値が掲げられるのは残念。

【総務課長】 前の3年間も使用料と売店売り上げは平成21年度より減っている。あまり目標を高くしてもということだと思う。

【委員】 湯之奥金山博物館は、現在も精一杯やっていると感じる。

【議長】 他の施設も基本的には売り上げはマイナスだが、目標は5%~15%上げている。

【委員】 目標は上げるべきなのか。

【議長】 挑戦する為には上げるべき。四捨五入は目標じゃない。

【委員】 達成困難な目標だと実績評価が低くなってしまう。

【議長】 それなりの税金投入がある。売り上げが上がれば税金投入が少なくなる。目標として掲げる数字なのか疑問。他の施設は、確かに高い目標ではないが、ある程度のパーセンテージのアップがある。

例えば、取組計画にある「旅行会社へのPR」だが、自分も年2回行っていたが、身延町には会ったことが無い。富士河口湖町や甲府など他の町村はすごい。一度商工会がラフティングとキャンプのPRをしていたのに会った程度。

【委員】 何年か前にやっていたのを知っている。特産物のPRなどをしていた。

【議長】 旅行会社へのPRの仕方が疑問。パンフレットを置いている程度なのか。例えば青少年育成町民会議とのタイアップも具体的に取り組めば、16,000円位増えるだろうと思う。

取組計画と目標のギャップがある気がする。

意識の問題。このような数字を載せてくると、最初からやる気があるのか疑問。本当に「目標設定型の施設運営へ転換を推進する」に相応しい数字なのかという気がする。

【総務課長】 生涯学習課は幾つもの施設がある。担当者毎の考えで載せてきていると思う。おそらく統一されていない部分があると思う。

【議長】 これでB評価としてもしょうがない。もしそうであれば、課としてきっちり詰めるべきだと思う。各施設の担当が集まって決め

るのも方法。

【委員】 直接施設の職員に「儲ける必要はない」と聞いたことがある。文化や観光PRのために、儲けのためにやっていないと言っていた。その感覚が違う。儲ける儲けないではなく、実際に費用が何千万と掛かっているのだから、かけた費用をどうやって回収できるかという気持ちでやってもらいたい。設ける必要がないという感覚であれば、こういった目標になる。

【議長】 この項目は、「運営から経営への意識チェンジ」を図ろうとして設定した目標。こういうところに載せてくる数字ではないと思う。

【委員】 何年か前にテレビで早川町が「笑っていいとも」の番組で、宇崎竜童がでた時に早川町の物産を送ったことがあった。集まったお客様にやれば、話題になる。宇崎さんが5分くらい早川町のことを話した。すごい良いPRになったと思う。メディアの影響は大きい。身延町もみのぶまんじゅうを100個送ってPRしたらどうかと、進言したことがあったが、却下された。

自分は旅行に行くときもみのぶまんじゅうを持って行ってPRしている。

【総務課長】 みのぶまんじゅう屋だけのPRになってしまう。

【議長】 ここに身延町体験チャレンジというパンフレットがあるが、様々な体験が載っている。こういうものを徹底的に使って学校などにPRすれば。どこまで売り込んでいくが問題。書くのは簡単。これをもって学校をまわれば、それだけで1万6千円はない。

目標と食い違っても様々な事情があるから仕方ないが、そこにいくためにどんな努力をしたかだ。これは努力をした数字じゃないのでは。

【委員】 パンフレットは町外にも置いてあるのか。みのぶタクシーはコピーをしてお客様に配っている。

【議長】 身延町のパンフレットは一部の単価が高いため、そんなにバラ撒けずに発行部数が少ないのでは。お金の掛け方が違う。折角あるのだから、もう少し活用して欲しい。

【委員】 取組計画のような仕事に従事できる職員は何人いるのか。

【議長】 なかとみ和紙の里・なかとみ現代工芸美術館も、取組計画に同じことが書いてある。ほとんど変わっていない。

【委員】 同じ職員がプランをたてているのか。

【総務課長】 それぞれの担当だと思う。

【委員】 担当は何人ぐらい役場職員がいるのか。例えば、金山博物館は。

【総務課長】 正職員3人と臨時職員。

【委員】 お客様が来るから、PRに歩くのも一人程度だと思うが。

【議長】 やる気の問題。やる気があればいくらでも時間はある。このような意識改革をしないか、行政改革をいくらしても仕方ない。

【委員】 観光課・生涯学習課というような課単位の取り組みじゃなく、パンフレットも課同士の横のつながりの中でやっていけば、意識改革できると思う。身延町には観光素材がたくさんあるから、どう調理していくか、富士山世界遺産や中部横断道など、本気でやっていけばいいと思う。本栖湖から波高島まで観光バスが通れることを基本的には目標にして、ここにもし観光バスが通れば富士五湖へ来たお客様が身延町に来られる。観光ルートの確立を進めていき、出来た時には、生涯学習課の施設も観光課も一体になってやっていく。そういうプランを長期・中期・単年度的なものを練ることができるノウハウを持っていないと。職員は2～3年で異動するからという気持ちでは無理だと思う。

【委員】 上司がそういった考えの人だと下の方がやり易いが、ひとりではやれとなると、浮いてしまう。

【総務課長】 意欲のある職員も大勢いる。

自分も和紙の里の所長をしていた時、味菜庵の赤字をトントンにしたが、外部委託してプロに任せたら全然違い黒字になった。働いている人たちの意識の問題もある。「8時から5時までいれば給料のもらえるバイトでいいです」という部分があるが、プロは

2時になってお客様がいなくなれば「うちは時間給だから」とどんどん帰ってもらい、余計な給与を払わない。
儲ける気のない職員も全くいないわけではないと思うが、努力している職員も大勢いる。

【委員】 意欲のある職員を増やすにはどうしたらいいのか。

【議長】 人事評価は。

【総務課長】 きちんとしていかなければならない。まだ途上段階。今すぐになると、かなりの弊害がある。

【委員】 公務員は悪いことをしないと首にならない。どこの職場にも仕事に意欲の無いような職員がいる。仕事を頼むと休む。やる気が無いならやめたらと思う。いくらでも入りたい人はいる。

【総務課長】 今年から公務員も首にできるように制度が新しくなった。最低評価が3年間続くと首が切れるという制度である。今後もだんだん改善されていくのでは。

【委員】 管理職も評価能力があるのか疑問。

【議長】 ここまでの項目の目標はこのままいくか、目標を設定し直してもらおうか。

【委員】 総合文化会館のチケット売上目標がここだけパーセントの目標。集客率だと思うが、平成24年度の実績に全公演80%以上とあるが、目標も80%というのはおかしくないか。

【議長】 先日の自衛隊講演のような無料のものは満席になるが、自分が行ったイベントは、申し訳なくてそこにいられない程少なかった。役場の職員が声をかけて行くようにしなければ。自分が指摘してから最近では減ったが、人気の講演は役場の職員ばかりいる。

【委員】 防災無線は使えないのか。以前チケットが余っていると聞いた時、防災無線をと進言したが、使えないということを知った。

【総務課長】 防災行政無線は、何でも使えるというわけではなく、運用の制限がある。

【議長】 文化会館前の道路に看板が出ているが。

【委員】 少し敷地に入ったところに看板がたっているから、非常に見づらい。反対側の富士川側に立てれば見やすいが。

【総務課長】 文化会館の敷地を利用したもの。国交省側に立てると、占用や金額のことだけでなく、今は看板の数量計算などすごく難しくなってしまう。

【議長】 文化会館チケット売上は全くの横並びの目標。

【委員】 私は、当初から年1回ジャズコンサートをやっていて、400席が満席であれば500枚目標にしてチケットを作って売っている。それでほぼ満員。売り込み方は多少強引なところもあるが、20人程が単純にひとり25枚売り込む。行政は押し売りは出来ないと思うが、PRの仕方が足りないのでは。

【議長】 職員は200人いる。一人2枚売れば満席。とにかく、そこが増えないと持ち出しはそれだけ増える。満席になっても持ち出しかもしれないが、満席にならなければもっと持ち出しが増える。文化ホールの担当者にだけ任せるのではなく、職員としてすべき。

行政はどうしても縦組織。横になかなか広がらない。

◎P2『②町民とのパートナーシップ 体育施設の整備への協働』

【委員】 質問の前に要望を。委員会に各課の課長が来ていると、この場で答弁ができる。質問シートで質問が出ている担当は、委員会に出席して欲しい。

旧静川小学校の校舎・校庭・体育館の活用を地域の人たちと考えた。成果が上がって、これこそ連携と協働の推進だと感じた。

取組計画の補足をしたいが、施設整備は草刈だけでなく掃除もしたい。「草刈など」と考えた方が良い。

また、体協専門部とあるが、静川の場合は体協専門部だけじゃない。活性化委員会というものを、総務省の補助事業で、国から1,100万円と町からの補助金もでた。非常に良いものを町がもってきてくれた。まだ準備段階。活性化委員会も草刈を行っている

ので、追加して欲しい。
大変良い取組。益々良くしていきたい。

◎P2『②町民とのパートナーシップ パブリックコメント制度の活用と推進』

【議長】 「パブリックコメント制度の活用と推進」について、4件は項目が4件あったのか意見が4件あったのか。住民から意見はある程度寄せられるのか。

【事務局】 項目が4件。住民からの意見の実績はない。HPに作成したものを公開し、期限を設け意見を募集する。行政改革大綱は、お知らせ版にて周知をし、その後HPに載せ、各支所・出張所に設置して意見を求めた。

【議長】 前から掲げている項目ではあるが、確かに必要な項目ではあるが、そのやり方を見直すべき。成果として、ほとんど何も意見があがってこないのでは、みんなが意見を出せるようなやり方に変えないと、町民とのパートナーシップに掲げてても意味が無い。気楽に意見できるような方策を考えて町民の意見を反映するべき。

【委員】 4件の内容は。広報みのぶで静川小の跡地利用のアンケートがあったと思う。非常に良い制度。

【議長】 周知の方法を考えたほうが良い。

【事務局】 通常は広報みのぶとお知らせ版で周知している。

◎P3『②町民とのパートナーシップ みのぶ子育て支援プランの達成度の向上』

【委員】 「病後時保育事業」とは。

【事務局】 この項目は、「みのぶ子育て支援プラン」からの1項目。子どもが病院を退院等した時に、一時的にお子さんを預かる場所。現在は無いので、3年間のうちに1か所の開設を目指すというもの。今までは、「みのぶ子育て支援プランの推進項目をやっていく」という目標だったが、その中の未達成項目をあげた。

【委員】 1か所はどこか。保護者から要望があったのか。

【事務局】 担当課に確認する。

◎P2『②町民とのパートナーシップ 地域の人と連携した健康な街づくりの推進』

【議長】 「地域の人と連携した健康な街づくり」の取組計画欄に「地域人」とあるが、表現が上からに感じる。小項目と同様に「の」を追加して「地域の人」とした方が良い。

◎P3『②町民とのパートナーシップ 町民と協働による観光のまちづくりの推進』

【議長】 身延山トレイルランニングレースを開催するとあり、目標欄に「多くの町民が参加する観光地づくりに取り組む」とある。この内容はどのように考えてるのか。また、「国民保養温泉計画の見直しを契機に」とあるが、計画はどのように見直されたか。これも目標欄に「多くの町民が参加する観光地づくりに取り組む」とあるが、何を3年間のうちに具体的に進めるのか。取り組み計画を具体的に掲げた方がいいと思う。抽象的でよくわからない。

【委員】 温泉祭りなど、昔は青年団や地元婦人会などに動員がかかったが、最近は動員がない。

【議長】 下部温泉で行っている「風呂の日」の無料開放は。

【総務課長】 このことについては町でやっていることではない。町が勝手に音頭をとって町民にやってもらうのではなく、住民から要望があったものを町が協力する、協働でやっていかないと上手くいかないと思う。

お互いに知恵を出し合ってやっていかないと。

◎P2『②町民とのパートナーシップ 町民との協働による基盤整備の推進』

【議長】 「(2) 連携と協働の推進」のこれまでの項目、本格的に取り組めば相当いろいろな成果があると思う。1つ行政にお願いがあるが、産業課・建設課の「原材料支給等で支援し基盤整備を推進」とあるが、重機と原材料だけやるから後は自分たちでやれというような、上からの形はやめて欲しい。各区からの要望に基づき、こうしたらどうかというような提案をしていくような形にしても

らいたい。町の方で知恵を出してあげるといった形。
非常に良いことだと思う。自分の地区も2回ほど利用した。

【総務課長】 区の要望の中には前年の要望をそのまま載せてくるケースもある。選別していくのが難しい部分もある。

【議長】 本日の予定はここまでとなっている。特に第三次の中では「(2)連携と協働の推進」という項目が、重要な項目だが、いくつかそういった形で上がってきたので、実行していただければ非常によい町づくりになる。
ここまでの項目で、他に何かあれば。

【委員】 行政改革実行プランに大事な問題が抜けていると思う。学校統合問題について、中学校を1中にする問題。平成28年4月1日に統合予定。1年前の議会で議決が必要なはず。切迫した問題。町の未来にかかる大きな問題が実行プランに記載がない理由を聞きたい。次回は担当課長にも出席して欲しい。

【議長】 学校統合問題は、行政改革とは別の問題。既に検討が終わっている。あらためて行政改革の中に掲げる項目ではない。別途な会議のなかで決定されている話。行政改革のなかでそれを引っくり返すということはない。載らないのは、既に学校統合計画の中ですべて動いていること。別の委員会で動いていることなので、行政改革の問題とは切り離す問題。その問題は、学校統合委員会の問題。

【委員】 学校統合委員会は既に終わっている。あとは議会での対応になる。

【委員】 もう決定している。

【委員】 教育委員会が決定したもの。

【委員】 審議委員会の方針の中では、もっと早くしてもらいたい。時間がかかればかかるほど、いざ統合する時に子供がいけないでは困る。何の為に統合するかといえ、今の子どもたちは、中学校で部活の選択が出来ない。すぐにでもやってもらいたい。

小学校も2小学校で答申を出したが、議会でなぜか3小学校に

決まった。旧町ごとかと思っただが、それも違った。少し答申とは違うところもあった。学校がなくなると地域がなくなるという人が多くいたが、逆で、地域の子どもたちが少なくなったから学校がなくなる。極論を言えば自分たちの子や孫を連れてくればいい。

メリットもデメリットも見てきたが、審議委員会の中では、子どもたちのことを第一に考えれば、なるべく早く大勢の中で教育を受けられる体制を作って欲しいと答申を出した。もう4年ぐらい前。

【議長】 今回、行政改革実行プランの中で、学校教育課から出てきたのは、学校給食をセンター方式にとの問題。統合問題とは無関係なので、学校教育課が統合問題を説明にくるというのは無い。給食センターの方式の説明をとるのであれば、次回参加をお願いするが。

【委員】 給食センター問題と学校統合とは切り離せない問題。

【議長】 学校統合の問題は終わっている問題なので、切り離して欲しい。

【委員】 中富中学校は真っ先に廃校になると思うが、そこには大きな給食センターがある。それがどうなるのか心配している。

【議長】 山梨県内は、ほとんどが給食センター方式。富士吉田市は1ヶ所、南アルプス市も1ヶ所にした。基本的には給食センター方式が今の流れ。

センター方式にしなければ、材料のロス、作る人員の問題、効率の問題がある。

【事務局】 今日の質問の回答は、次回の委員会で提示する。

【議長】 納得がいかなければ、課長からの説明を求める。
次回続きから。

★2回目の審議についてはここまで。

★次回は8月1日（木）19時30分

21:45 散会